



2023年度 太平洋いわし類長期漁海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(2024年4月~7月)のポイント

海況

黒潮はA型^(※1)基調で推移する。

沿岸水温は、潮岬以西は「**平年並**」^(※2)~「**高め**」^(※2)、熊野灘~遠州灘~相模湾は「**平年並**」~「**高め**」で暖水波及時に「**極めて高め**」^(※2)、伊豆諸島海域は「**やや高め**」^(※2)~「**極めて高め**」、房総~常磐南部海域は「**平年並**」~「**高め**」で推移する。

※1 黒潮を遠州灘沖から伊豆諸島周辺海域の流路で分類する

A型：流路南端が北緯32度以南

※2 平年並=平年値±0.5℃程度、
やや高め=平年値+1.0℃程度。

高め=平年値+1.5℃程度、極めて高め=平年値+2.5℃以上、
ただし、鹿島灘~常磐南部海域の基準は次頁末尾を参照のこと。

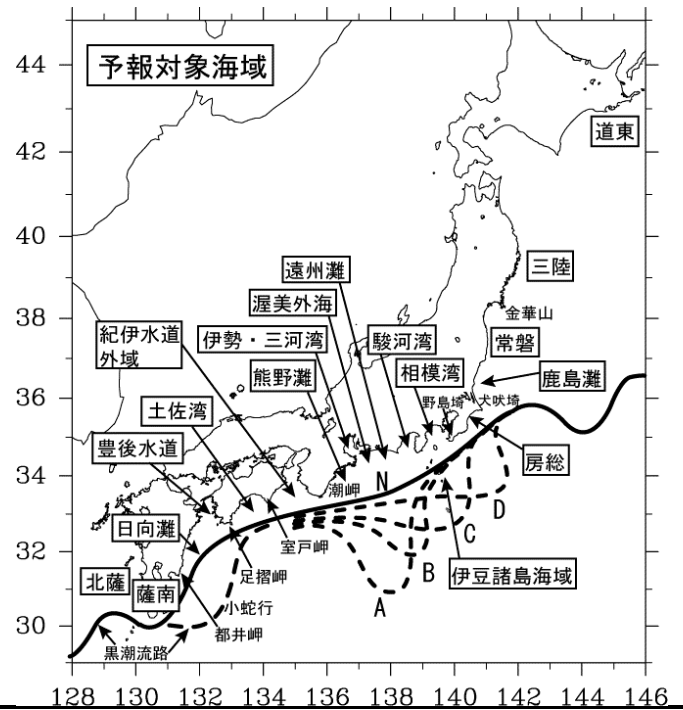
漁況(来遊量予測)

マイワシ

前年並~下回る海域が多い。

カタクチイワシ

前年並~上回る海域が多いが依然として低水準。



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当 企画調整部門(横浜) 上原

漁況：浮魚資源部(横浜) 福若、由上、渡部、木下

海況：海洋環境部(横浜) 栗田、伊藤

電話：045-788-7615、ファックス：045-788-5001

当資料のホームページ掲載先URL

<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/>

中央ブロック海況予報

今後の見通し（2024年4月～7月）

(1) 黒潮（注：黒潮流型は図1を参照のこと）

◎潮岬以西

- ・都井岬沖では、接岸傾向で推移する。
- ・足摺岬沖では、4月は離岸傾向で推移し、その後接岸傾向となる。
- ・室戸岬～潮岬沖では、離岸傾向で推移するものの、一時的に接岸することがある。

◎潮岬以東

- ・大蛇行が継続し、A型基調で推移する。
- ・蛇行北上部は、概ね伊豆諸島海域の西側に位置する。
- ・房総沖では、接岸傾向で推移するものの、一時的に離岸することがある。

(2) 薩南～房総海域

- ・都井岬～足摺岬沖は、概ね黒潮系暖水に覆われる。
- ・室戸岬～潮岬沖は、一時的に黒潮から暖水が波及することがある。
- ・熊野灘～遠州灘～相模湾は、黒潮の接近や黒潮系水の波及に伴い暖水に覆われる。
- ・伊豆諸島海域は、概ね暖水に覆われる。
- ・房総沖は、黒潮からの暖水に覆われやすい。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・黒潮から暖水が波及しやすい。

(4) 沿岸水温

- ・潮岬以西は、「平年並」～「高め」で推移する。
- ・熊野灘～遠州灘～相模湾は、「平年並」～「高め」で推移し、暖水波及時には「極めて高め」となることがある。
- ・伊豆諸島海域は、「やや高め」～「極めて高め」で推移するが、八丈島周辺では一時的に「やや低め」～「平年並」となることがある。
- ・房総海域～常磐南部海域は、「平年並」～「高め」で推移する。

※ 平年並＝平年値±0.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.0℃程度、
（高め、低め）＝平年値±1.5℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±2.5℃以上
（鹿島灘～常磐南部海域では、平年並＝平年値±1.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.6～3.9℃程度、
（高め、低め）＝平年値±4.0～6.0℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±6.1℃以上）

経過（2023年12月～2024年3月）（注：経過は図2を参照のこと）

(1) 黒潮

- ・ A型流路の大蛇行が継続した。
- ・ 1月～3月上旬にかけて、小蛇行の発達に伴い都井岬沖で大きく離岸した。
- ・ 2月下旬～3月上旬にかけて、小蛇行の東進に伴い足摺岬沖で大きく離岸した。
- ・ 2月、蛇行北上部が遠州灘～石廊崎沖で緩やかなS字状となった。
- ・ 房総沖では、12月と2月中旬に一時的に離岸した。

(2) 薩南～房総海域

◎薩南海域

- ・ 黒潮北縁は、12月～2月は屋久島南付近の「平均的な位置」で推移した。

◎潮岬以西

- ・ 都井岬沖では、「著しく離岸」で推移した。
- ・ 足摺岬沖では、12月～2月中旬は「接岸」、2月下旬～3月上旬は「著しく離岸」で推移した。
- ・ 室戸岬沖では、「やや離岸」～「かなり離岸」で推移した。
- ・ 紀伊水道外域では、1月中旬～下旬に黒潮北縁から暖水が波及した。

◎潮岬以東

- ・ 2月中旬～3月上旬にかけて黒潮屈曲部から熊野灘～遠州灘に暖水が波及した。
- ・ 駿河湾、大島西水道へ向けて断続的に暖水が波及した。
- ・ 黒潮は、三宅島～御蔵島付近を北東～東向きに流れた。
- ・ 房総沖の黒潮は概ね接岸傾向で推移したが、12月と2月中旬に一時的に離岸した。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・ 黒潮系暖水の影響が継続的にみられた。

現 況 (2024 年 3 月 17 日現在)

(1) 黒 潮

- ・ A 型流路であり、大蛇行が継続している。
- ・ 小蛇行の東進に伴い、足摺岬～潮岬沖にかけて大きく離岸している。
- ・ 遠州灘沖で 30.5°N 付近まで南下した後、石廊崎沖を北上し、三宅島付近を北東へ流れている。

(2) 薩南～房総海域

◎潮岬以西

- ・ 黒潮は、都井岬沖で「かなり離岸」、足摺岬～潮岬沖で「著しく離岸」している。
- ・ 足摺岬～潮岬沖に暖水渦がみられる。

◎潮岬以東

- ・ 熊野灘～遠州灘沖に、黒潮系暖水がみられる。
- ・ 伊豆諸島海域は、暖水に覆われている。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・ 黒潮系暖水の影響がみられる。

※ 黒潮の離接岸に関する語句表記は、川合英夫(1972)：海洋物理Ⅱ、東海大学出版会に準じた。

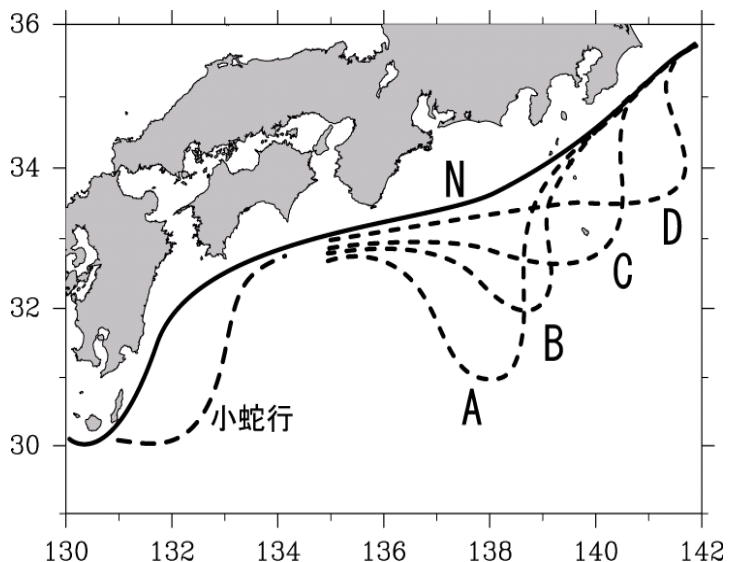


図1 黒潮流型の分類

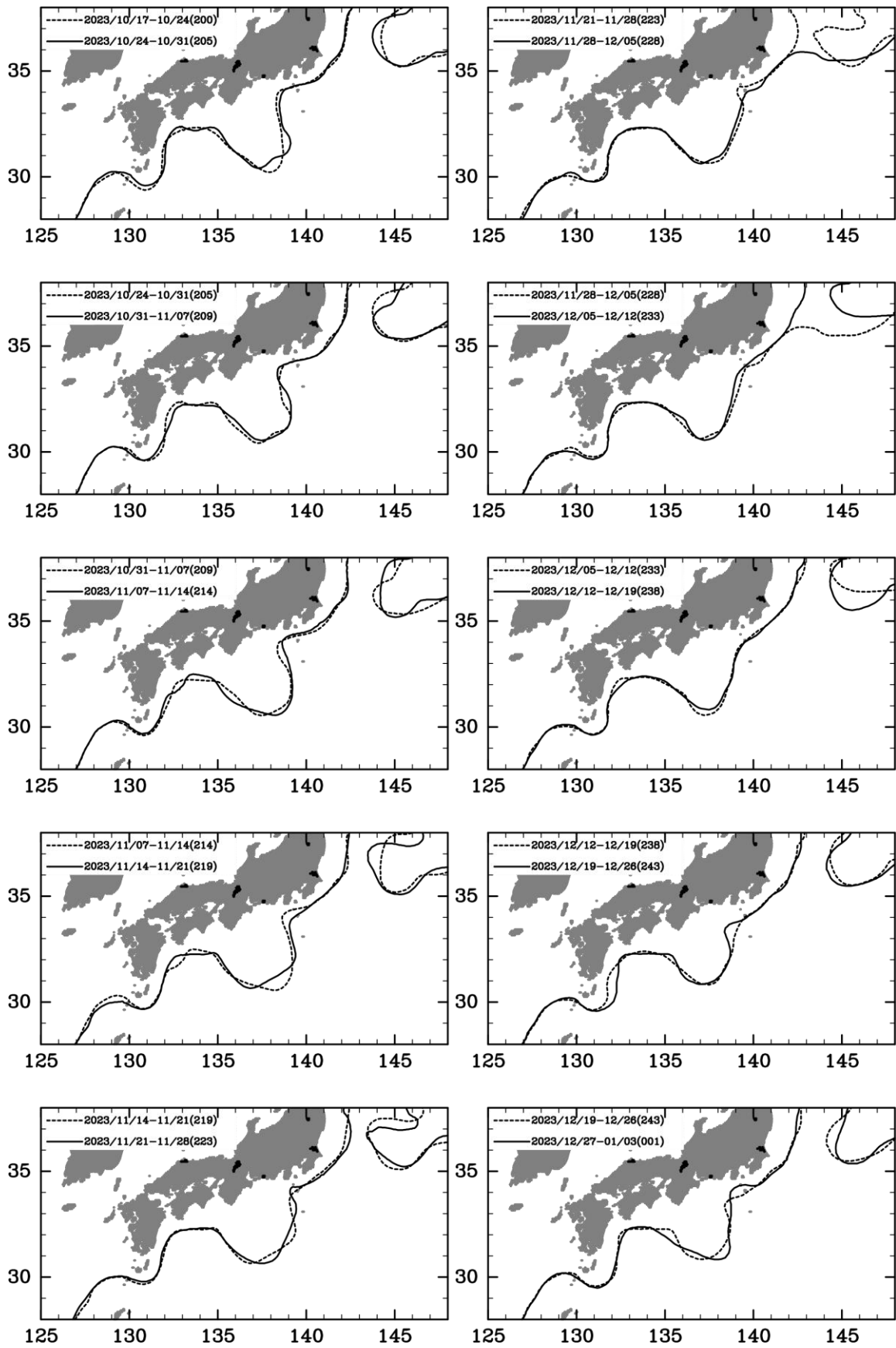


図2 黒潮流軸のパターン

(2023年10月～2023年12月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

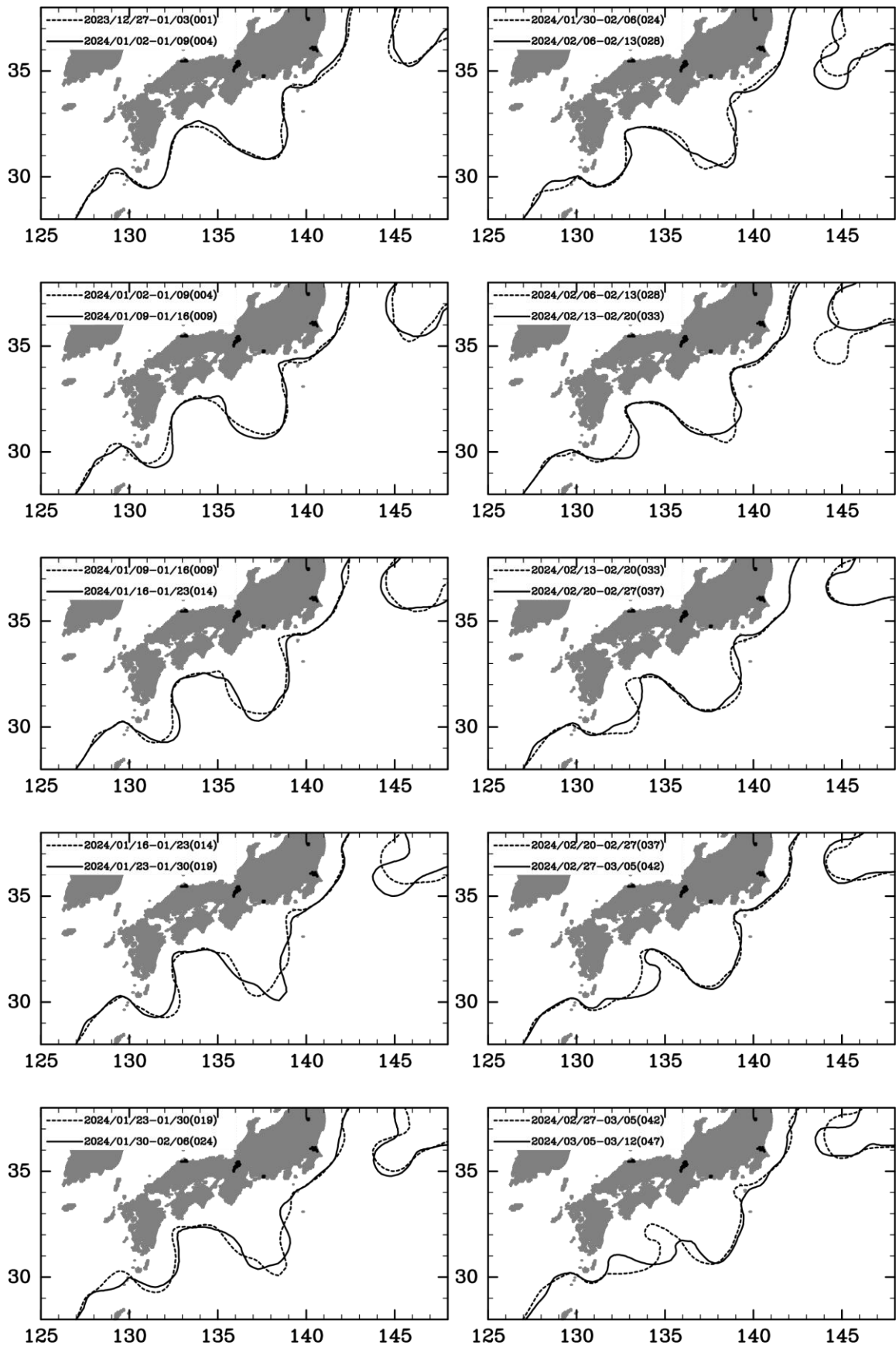


図 2 (つづき) 黒潮流軸のパターン

(2024年1月~2024年3月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

マイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2024年4月～7月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2024年級群）、1歳魚（2023年級群）、2歳魚（2022年級群）、3歳魚（2021年級群）、4歳以上（2020年級群以上）。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩～薩南海域では前年並。日向灘では前年並～上回る。豊後水道南部西側では前年並。豊後水道中南部東側では前年を下回る。宿毛湾～熊野灘では前年並～下回る。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：北薩～日向灘では、期前半は15 cm～18 cm前後（1歳以上）、期後半は8 cm～12 cm前後（0歳魚）主体。豊後水道西側では、4月は15 cm前後（1歳魚）主体、5月以降は10 cm前後（0歳魚）主体に15 cm前後（1歳魚）が混じる。豊後水道東側では、5 cm～10 cm前後（0歳魚）主体。宿毛湾～紀伊水道外域では12 cm未満（0歳魚）および14 cm以上（1歳以上）が漁獲される。熊野灘では14 cm以上（1歳以上）主体。

2. 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：低調であった前年並。

(2) 漁期：伊勢・三河湾、渥美外海では7月に漁獲される。駿河湾、相模湾では期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：伊勢・三河湾、渥美外海では14 cm未満（0歳魚）主体。駿河湾、相模湾西部では、12 cm以下（0歳魚）主体に、13 cm～17 cm前後（1歳魚および2歳魚）が混じる。相模湾東部では10 cm～14 cm（1歳魚）主体に漁獲され、期後半には12 cm未満（0歳魚）も漁獲される。

3. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：前年並～下回る。

(2) 漁期・漁場：まき網は、犬吠埼沖～常磐南部海域で漁場が形成され、5月以降には三陸南部海域、6月中旬以降には道東海域でも形成される。定置網は、仙台湾～三陸南部海域において、期を通じて入網がみられる。

(3) 魚体：10 cm～16 cm前後（1歳魚）、15 cm～18 cm前後（2歳魚）、17 cm～19 cm前後（3歳魚）、17 cm以上（4歳以上）。期後半には房総海域において11 cm前後（0歳魚）も漁獲される。

漁況の経過（2023年12月～2024年2月）および見通し（2024年4月～7月）についての説明

1. 資源状態

マイワシ太平洋系群の資源量は、1980年代は1,000万トン以上の高い水準で推移したが、1990年代に入って急減し、2002年以降2009年まで10万トン前後の低い水準で推移した。その後、比較的良好な加入が続

いたこと、および漁獲圧が低下したことにより資源量は増加し、2014年には100万トンを上回った。その後も良好な加入が続いたことにより資源量はさらに増加して、2022年は491万トンと推定された(2023年度資源評価)。

2020年級群(4歳)以上は、最近10年(以下、近年)において高い加入量の年級群で構成されている。2023年における3歳以上としての漁獲状況は前年並であった。4歳以上の推定残存資源量は前年を上回る。

2021年級群(3歳魚)は、加入量が689億尾と推定されており、2020年級群と同程度の加入水準となっている。2023年における2歳魚としての漁獲状況は、前年を下回った。2021年級群の推定残存資源量は、2020年級群の同時期を下回っている。

2022年級群(2歳魚)は、加入量が582億尾と推定されており、2021年級群と同程度の加入水準となっている。2023年における1歳魚としての漁獲状況は、前年を下回った。2022年級群の推定残存資源量は、2021年級群の同時期と同程度である。

2023年級群(1歳魚)は、2023年における0歳魚としての漁獲状況(主に西日本海域)は、前年を上回っている。一方で、沖合域においては、5月~6月の移行域幼稚魚調査(水産資源研究所)において前年を下回るCPUE(Catch Per Unit Effort: 単位努力量当たり漁獲量)が見られ、直近の9月~10月の北西太平洋秋季浮魚類資源調査(水産資源研究所)に基づく加入量指数は前年を下回った。また、6月~7月の北西太平洋北上期浮魚類資源調査(水産資源研究所)においては、前年を下回るCPUEとなった。現時点では不確実であるが、近年は沖合回遊群が資源の主体であることを踏まえ、2023年級群の加入量は前年を下回る水準と考えられる。

2024年級群(0歳魚)については、現時点ではその水準を予測できない。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

(1) 北薩~熊野灘(まき網、定置網)

北薩~熊野灘での2023年12月~2024年2月の漁獲量は15トンと前年同期(3.0トン)を上回った。前年を上回る漁獲となった海域も見られたが低調に推移した。(漁獲量は各地主要港水揚資料および水揚物標本測定結果等からの推定値)

・来遊量: 北薩~薩南海域では、4月は2歳魚~4歳魚(2022年級群~2020年級群)、5月以降は0歳魚(2024年級群)が漁獲の主体となる。本海域において、3月上旬に長崎県海域からの南下群と考えられる産卵親魚のまとまった漁獲が見られたため、来遊量は好調であった前年並と予測される。

日向灘では、4月まで1歳以上、5月以降は0歳魚が漁獲の主体となる。本海域の上半期の漁獲動向と関係がみられる前年下半期の三重県・高知県・鹿児島県のまき網漁獲量に基づく指標値は前年と同程度であった。また、北薩~薩南海域において2月に漁獲が見られ、卵も確認されていることから日向灘へ来遊する可能性もある。以上より、今期の来遊量は低調であった前年並~上回ると予測される。

豊後水道南部西側では、4月は1歳魚が漁獲の主体となり、5月以降は0歳魚を主体に1歳魚が混じる。2024年1月以降、本海域において漁獲が見られず、近隣の海域も同様に漁獲が低調であることから、今後とも来遊は期待できない。以上より、今期の来遊量は低調であった前年並と予測される。

豊後水道中南部東側では、0歳魚が漁獲の主体となる。本海域において、2023年7月~11月の水揚量が近

年で最も少なかった2022年同期をやや下回ったことから、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。

宿毛湾、土佐湾では、0歳魚および1歳以上が漁獲される。冬季の土佐湾におけるシラス漁の漁獲状況から、0歳魚の発生は前年を下回って推移している。また、宿毛湾における中型まき網の漁獲状況から、1歳以上の来遊は前年同様に低調である。以上より、今期の来遊量は低調であった前年並と予測される。

紀伊水道外域西部では、0歳魚が漁獲の主体となる。近年の漁獲傾向から、来遊量は前年並～下回ると予測される。

紀伊水道外域東部では、0歳魚および1歳以上が漁獲される。2024年1月～2月の1そうまき網における漁獲はなく、近年の傾向からすると今期も来遊は見込めない。また、黒潮も引き続き離岸基調で推移すると予測され、マイワシ漁場の形成条件は悪いと考えられる。以上より、1歳以上の来遊量は低調であった前年並と予測される。

熊野灘では、1歳以上が漁獲の主体となる。2024年2月末時点で本海域への産卵親魚の来遊は見られていない。また、沿岸域の1歳魚および2歳魚についても、まとまった漁獲が見られていない。以上より、今期の来遊量は低調であった前年並と予測される。

- ・漁期：各海域とも期を通じて漁獲される。
- ・魚体：近年の出現状況から、北薩～日向灘では、期前半は15 cm～18 cm前後の1歳以上、期後半は8 cm～12 cm前後の0歳魚が主体となる。豊後水道南部西側では、4月は15 cm前後の1歳魚が主体となり、5月以降は10 cm前後の0歳魚を主体に1歳魚が混じる。豊後水道中南部東側では、5 cm～10 cmの0歳魚が主体となる。宿毛湾～紀伊水道外域では、12 cm未満の0歳魚および14 cm以上の1歳以上が漁獲される。熊野灘では14 cm以上の1歳以上が漁獲される。

(2) 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

伊勢・三河湾～相模湾での2023年12月～2024年2月の漁獲量は790トンと前年同期（4,786トン）を下回った。

・来遊量：伊勢・三河湾、渥美外海では、0歳魚（2024年級群）が漁獲の主体となる。沿岸回遊群については前年と同程度の来遊は見込めるため、今期の来遊量は前年並と予測される。

駿河湾、相模湾西部では、0歳魚が漁獲の主体となり、1歳魚（2023年級群）および2歳魚（2022年級群）が混じる。2023年12月～2024年2月の駿河湾および相模湾西部における産卵親魚の漁獲状況は前年を大きく下回ったことから、親魚の来遊量は今後も低調に推移すると推測される。0歳魚については、2023年12月～2024年1月に本海域においてマシラスが漁獲されていないこと、および産卵親魚が駿河湾以西に来遊していないことから、今後の来遊量は少ないと考えられる。以上より、今期の来遊量は低調であった前年並と予測される。

相模湾東部では、1歳魚が主体に漁獲され、期の後半には0歳魚も混じる。マイワシ太平洋系群の資源量は増加傾向だが、相模湾への来遊は黒潮流路変動などの海況次第と考えられる。2024年も黒潮大蛇行は継続中であり、産卵親魚は早期に北上する可能性が高い。また、5月以降来遊する0歳魚の資源水準は現時点では不明であるが、近年の傾向から本海域に来遊する量は少ないと考えられる。以上より、今期の来遊量は不漁であった前年並と予測される。

- ・漁期：伊勢・三河湾では7月に漁獲される。駿河湾、相模湾では期を通じて漁獲される。
- ・魚体：近年の出現状況から、伊勢・三河湾では14 cm未満の0歳魚が主体となる。駿河湾、相模湾西部では、12 cm以下の0歳魚が主体となり、13 cm～17 cm前後の1歳魚および2歳魚が混じる。相模湾東部では10 cm～14 cm前後の1歳魚が主体となり、期後半には、12 cm未満の0歳魚も漁獲される。

(3) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

房総以北のまき網での2023年12月～2024年2月の漁獲量は5.9万トンであり、前年同期（7.2万トン）と同程度であった。房総以北の定置網等での2023年12月～2024年2月の漁獲量は3.5万トンであり、前年同期（2.9万トン）と同程度であった。

- ・来遊量：各年級群の資源状態と近年の漁獲状況から、今期の漁獲対象は2歳魚（2022年級群）～4歳以上（2020年級群）を主体に1歳魚（2023年級群）が混じって漁獲される。また、期後半には房総海域沿岸において0歳魚（2024年級群）も漁獲対象となる。

資源状態を反映し、2歳以上の来遊量は前年並と予測される。1歳魚の来遊量は、現時点では不確実であるが、沖合域での調査結果から前年を下回ると考えられる。0歳魚の来遊量は、現時点では不明だが、産卵親魚の漁獲状況および海況等から前年並の低水準と予測される。黒潮続流の勢力が強く、北上回遊が前年より早くなる可能性も考慮し、全体としての来遊量は前年並～下回ると予測される。ただし、漁獲量はまき網の操業状況に左右される。

- ・漁期・漁場：まき網は、犬吠埼沖～常磐海域で漁場が形成され、5月中旬には三陸南部海域、5月下旬には三陸北部海域、6月中旬以降には道東海域でも形成される。定置網は、仙台湾～三陸南部海域において、期を通じて入網がみられる。

- ・魚体：近年および直近の出現状況から、1歳魚は10 cm～16 cm前後、2歳魚は15 cm～18 cm前後、3歳魚は17 cm～19 cm前後、4歳以上は17 cm以上。まき網では、4月は2歳以上が主体となり、5月には全年級群が漁獲される。また、6月以降、犬吠埼沖～三陸海域において1歳魚および2歳魚の割合が高まる。定置網では1歳魚～4歳魚が主体となる。

カタクチイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2024年4月～7月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2024年級群）、1歳魚（2023年級群）、2歳魚（2022年級群）。

年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 西薩～常磐南部海域のシラス（船曳網）

(1) 来遊量：西薩～土佐湾、紀伊水道外域東部、鹿島灘～常磐南部海域では予測が困難。紀伊水道外域西部では前年並～下回る。伊勢湾、渥美外海では前年を上回る。遠州灘～駿河湾、相模湾では前年並。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

2. 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩、薩南海域では前年を上回る。日向灘では前年並～上回る。豊後水道南部西側では前年並。豊後水道東側では前年を上回る。宿毛湾・土佐湾では前年並。紀伊水道外域ではまとまった漁獲がない。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：4 cm～11 cmの0歳魚、1歳魚主体。

3. 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：熊野灘、駿河湾ではまとまった漁獲がない。伊勢・三河湾、相模湾では前年並。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。伊勢・三河湾では7月以降で、8月以降に本格化。

(3) 魚体：伊勢・三河湾では8 cm以下の0歳魚主体、その他の海域では9 cm～12 cmの1歳魚主体。

4. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：房総海域では前年を下回る。三陸南部海域～仙台湾では前年を上回る。三陸北部海域ではまとまった漁獲がない。常磐海域、道東海域では予測が困難。

(2) 漁期・漁場：房総海域ではまき網により期を通じて漁獲されるが、散発的。三陸南部海域～仙台湾では定置網により期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：6 cm～13 cmの1歳魚主体で、11 cm以上の2歳魚も漁獲される。

漁況の経過（2023年12月～2024年2月）および見通し（2024年4月～7月）についての説明

1. 資源状態

カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2002年の291万トンピークに減少傾向に転じ、2018年に9.5万トンの最小値となった後、増加に転じて2022年は24.7万トンと推定された（2023年度資源評価）。資源動向は親魚量の最近5カ年の推移から増加傾向である。本系群は漁場が形成される沿岸域だけでなく、資源状態に応じて黒潮親潮移行域まで広く分布する。

令和5年度資源評価に基づくと、2022年級群（2歳魚）の加入量は215億尾と推定された。水産資源研

研究所が実施している沖合域の調査船調査では、2023年6月～7月の北西太平洋北上期浮魚類資源調査（以降、北上期調査）において推定1歳以上のCPUE（全測点の平均CPUEで速報値。以下同様）は前年を上回ったものの低水準であった。一方、2023年9月～10月の北西太平洋秋季浮魚類資源調査（以降、秋季調査）における推定1歳以上のCPUEは前年を下回った。

2023年級群（1歳魚）は、主産卵場である東海海域を中心に7月～11月にシラスや0歳魚として漁獲され、2023年における同期間の漁獲量は前年並であった。2023年の北上期調査における推定0歳魚CPUEは前年を上回ったが低水準であった。これらのことから、2023年級群は2022年級群と同程度の低い加入であると推測される。

2024年級群（0歳魚）は、現時点でその水準を予測することは難しい。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

(1) 西薩～常磐南部海域のシラス（船曳網）

・来遊量：西薩～土佐湾および紀伊水道外域東部では、シラスの来遊量については予測が困難である。

紀伊水道外域西部では、春シラスは太平洋で産卵されたものを漁獲することになるが、紀伊水道外域におけるカタクチイワシ成魚の漁獲が不振であることから、前年並～下回ると予測される。

伊勢湾、渥美外海では、期を通じて漁獲され、5月以降に本格化する。マイワシ親魚の西日本への回遊が少ないことから、マシラスの来遊量は低調であった前年並と考えられるが、カタクチシラスは、漁場形成を阻害する黒潮のAs型流路が2023年よりは少なくなると見込まれるため、漁場形成状況が改善し、前年を上回ると予測される。また、自主的資源管理によって、近年の内湾の産卵水準は高く維持されているため、内湾でのシラスの生残状況次第では漁獲量の増加が期待できることから、今期の来遊量は前年を上回ると予測される。

遠州灘～駿河湾では、近年、マシラスは3月～5月に漁獲されており、静岡県で水揚げされるマシラスの親魚は産卵南下群と考えられる。三重県熊野灘のまき網において2月～3月のマイワシ水揚量が多い年は、3月～5月のマシラス水揚量が多い傾向がある。2024年1月～2月は熊野灘でマイワシの漁獲がほとんどなく、産卵親魚が熊野灘まで南下回遊していないため、マシラスは低調であった前年並と予測される。3月～5月のカタクチシラス水揚量は、シラスの補給源となる静岡県以西（黒潮上流域）のカタクチイワシ親魚量の影響を受けると考えられる。2023年12月以降の静岡県以西のカタクチイワシ水揚量は前年同様に低調であることから、カタクチシラスは低調であった前年並と予測される。近年、黒潮流路が遠州灘に接近すると不漁となる傾向があるが、4月以降は前年と同様に黒潮流路が遠州灘に近づくことと予測されている。以上のことから、シラス全体としては低調であった前年並と予測される。6月以降の予測は現時点では困難である。

相模湾では、期を通じて漁獲される。親魚資源であるカタクチイワシ太平洋系群の資源水準は依然低水準である。また、黒潮大蛇行が継続すると予測されることから、今期の来遊水準も前年、平年（2019年～2023年の平均）と大きく変わらないと考えられる。そのため、今期の来遊量は前年並と予測される。

鹿島灘～常磐南部海域では、2024年の茨城県海域の海況は、黒潮からの影響を受け、1月～2月とも暖水パターンで推移した。昭和53年以降の傾向では、1月～2月とも暖水パターンの場合、3月以降も暖水パターンで推移した年が12回あり、現在の黒潮流路、親潮の勢力を考慮すると今年は5月まで暖水パターンと

なる可能性が高い。このため、4月～5月の海況は黒潮からの影響を受け、シラスの生息に適した暖かい海になると予測されるが、例年シラスが安定的に獲れだす6月～7月の漁況は現時点で予測できない。このことから、来遊量の予測は困難である。

- ・漁期：期を通じて漁獲される。

(2) 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

・来遊量：北薩、薩南海域では、今期の漁獲主体となる1歳魚（2023年級群）は、棒受網で前年を上回る漁獲が続いている。他魚種の来遊も好調であったため、まき網では漁獲が見られないが、漁場に魚は来遊していると見られ、来遊量は前年を上回ると予測される。

日向灘では、2月～5月は、足摺岬以東由来と考えられる大型成魚群の来遊が漁獲の好不調を左右し、夏秋季は、被鱗体長10 cm～11 cm台主体の沿岸加入群が漁獲の主体となる。近年、大型成魚の来遊はほとんどみられず、今期も漁獲の主体となる可能性は低い。沿岸加入群の漁獲動向は、前年10月～12月の宿毛湾まき網漁獲量（銘柄：ドロ～タレ）と宮崎県シラス漁獲量（前年8月～12月）の相乗平均値を指標値として予測しており、2023年12月の時点で指標値が前年を下回っている。しかし、2024年2月の鹿児島県、高知県、愛媛県のカタクチイワシの漁獲状況が好調であるとともに、2023年12月～2024年2月のシラス漁獲量が前年同期を上回っており、さらに2023年12月のシラスの混獲率調査の結果ではカタクチイワシが多くを占めていた。以上のことから、今期の来遊量は前年並～上回ると予測される。

豊後水道南部西側では、例年、4月～6月は1歳魚を主体に0歳魚（2024年級群）が混じる。2023年7月～12月の水揚量は225.6トン（前年比144.2%）であったが、2023年10月以降、水揚げがない状態が続いていることから、来遊量は前年並と予測される。

豊後水道東側では、5月以降、1歳魚主体に漁獲される。2023年12月～2024年2月のカタクチシラスの水揚量が前年同期を上回っていることから、来遊量は前年を上回ると予測される。

宿毛湾、土佐湾では、期を通じて0歳魚、1歳以上が漁獲される。近年の宿毛湾の中型まき網の水揚量は上半期、下半期とも減少傾向であることから、今期の来遊量は前年並と予測される。

紀伊水道外域では、未成魚・成魚は主たる漁獲対象ではない。

- ・漁期：各海域とも期を通じて漁獲される。
- ・魚体：4 cm～11 cmの0歳魚、1歳魚主体。

(3) 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

・来遊量：熊野灘では、冬季に来遊する魚群は、前年夏秋季の漁獲対象とは異なり、黒潮親潮移行域から大規模回遊を行う群れと考えられ、漁獲動向も前年の熊野灘とは連動しない。2023年の秋季調査によると、2022年級群以上のCPUEは前年を下回り、2月末時点で本海域へのまとまった来遊は見られていないため、ほとんど漁獲されないと予測される。

伊勢・三河湾では、カタクチイワシ太平洋系群が低水準のため、愛知県沿岸部および内湾への来遊量の急増は見込めないが、前年に引き続き、漁期開始を遅らせて大型化を図ることにより、来遊量は前年並になると予測される。

相模湾西部では、定置網で他魚種に混ざって漁獲される。漁獲対象となる1歳（2023年級群）の資源水準は、前年に引き続き非常に低水準と推定されていることから、来遊量は低調であった前年並と予測される。

相模湾東部では、黒潮大蛇行が継続している2018年以降の相模湾主要定置網の4月～7月の漁獲量は、2017年以前と比べ明瞭に低下している（2013年～2017年平均147.2トン、2018年～2022年平均18.7トン）。今期も黒潮大蛇行が継続すると予測されることから、不漁傾向も継続するものと考えられる。以上のことから、今期の来遊量は前年並と予測される。

- ・漁期：期を通じて漁獲される。伊勢・三河湾では7月以降で、8月以降に本格化する。
- ・魚体：伊勢・三河湾では8 cm以下の0歳魚主体、相模湾では9 cm～12 cmの1歳魚主体に漁獲される。

(4) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

・来遊量：房総海域では、近年の4月～7月における主群は前年秋季以降0歳魚として来遊した群が成長した1歳魚となっている。一方で、2023年は、近年では漁獲が多く7,789トンとなり、そのほとんどが9 cm～11 cm台（中ゴボウ）の1歳魚であった。2023年は2月下旬に三重県外湾でまき網による漁獲が増加し、3月以降に外房海域～九十九里海域で漁獲が増加したことから、近年の傾向とは異なり、北上した1歳魚が来遊主群であった可能性が高い。4月～7月の1歳魚の体長組成を過去3年分比較した結果からも、2023年は2021年、2022年よりも大型であった。しかし、2024年は3月上旬時点で房総海域よりも西の海域で漁獲が増加したという情報は無く、中ゴボウの漁獲も小規模であるため、今期の1歳魚（2023年級群）の来遊量は前年を下回る低水準と予測される。大型魚（大ゴボウ・ゴボウセグロ）は、3月上旬時点で前年同様に来遊がほとんどなく、黒潮続流の北偏と沿岸水温が高い海況が続いていることから、予測対象期間中に三陸海域以北から南下してくる可能性は低い。これらのことから、今期の2歳魚（2022年級群）の来遊量は前年並の低水準と予測される。

常磐海域では、2017年3月以降、茨城県での水揚げがないため、来遊量の予測は困難である。

三陸南部海域～仙台湾では、黒潮続流が北偏し宮城県沿岸は高水温に覆われたため、3月中旬まで水揚げが継続しており、4月以降も引続き水揚げが継続すると予測されることから、来遊量は前年を上回ると予測される。

三陸北部海域では、漁業情報から、まとまった漁獲がない。

道東海域では、釧路水産試験場が実施した調査船調査の結果から、カタクチイワシの来遊量が増加傾向にあると考えられるため、予測対象期間内に来遊する可能性はある。一方、マイワシの来遊は中水準で2023年と同程度と考えられることから、まき網船は本種ではなくマイワシを対象とした漁獲を行うと考えられる。したがって、予測対象期間に本種を対象とした漁獲が行われる可能性は低い。

・漁期・漁場：房総海域ではまき網により期を通じて漁獲されるが、散発的。三陸南部海域～仙台湾では定置網により期を通じて漁獲される。

- ・魚体：6 cm～13 cmの1歳魚主体で、11 cm以上の2歳魚も漁獲される。

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場	地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産研究部 水産技術センター
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	和歌山県水産試験場
岩手県水産技術センター	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課
宮城県水産技術総合センター	高知県水産試験場
福島県水産海洋研究センター	愛媛県農林水産研究所 水産研究センター
茨城県水産試験場	大分県農林水産研究指導センター 水産研究部
千葉県水産総合研究センター	宮崎県水産試験場
東京都島しょ農林水産総合センター	鹿児島県水産技術開発センター
神奈川県水産技術センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
静岡県水産・海洋技術研究所	(取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所
愛知県水産試験場 漁業生産研究所	
三重県水産研究所	